

## 1. 17集会を行いました

1月17日（火）の地震による避難訓練の後、児童会主催の『1. 17集会』を行いました。

集会では、阪神淡路大震災によって亡くなられた6434人をはじめ、阪神淡路大震災に伴って亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りしながら、全校生で『黙祷』を行いました。

そして、児童会から、防災について全校生に呼びかけ、大切な命を守る取り組みを再確認しました。4年生も防災学習で学んだことを全校生に伝え、『自助』『共助』の大切さについて呼びかけました。



28年前に阪神淡路大震災が起き、多くの尊い命が亡くなりました。

私たちは、自分の命も友だちの命も大事で亡くしたくありません。大切な命を守るために何ができるかを一緒に考えましょう。

中嶋先生（アトリエ太陽の子）をお招きした『命の一本桜プロジェクト』では、自分の手のひらいっぱい力を入れて大きな桜を描きました。自分一人の手のひらは小さくても、平庄っ子みんなで力を合わせるとたくさんの花を咲かせることができました。自然災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ日頃からいろいろな人とのつながりを大切に生きていきたいと思えます。



周りの人とコミュニケーションがあることで命が守れます。

毎日近所の人にあいさつをして交流を深め、災害に備えたいです。

一度命を落としてしまうと、二度と戻ってきません。一日一日を大切に生きようと思えました。

地震を甘く見ないで、防災グッズを用意したり、家族で話し合ったりして備えたいです。

阪神淡路大震災を忘れず、水や食料を備えたいです。

友だちや近所と助け合えるようにあいさつをしたいです。

普段から周りの人たちとコミュニケーションをとることが大切だと思います。

## 《地震による避難訓練後の校長の話より》

みなさん、地震による避難訓練は真剣に取り組めましたか？

「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉があります。私たちの住む兵庫県では今から28年前に、大きな大きな地震（兵庫県南部地震）がありました。その被害のことを阪神淡路大震災と言います。その地震で多くの人の命が奪われました。亡くなった人達（6434人）は、もっともっと生きたかったはず。地震は本当に恐ろしいものです。28年前に兵庫県で発生した地震のことを知り、自分たちの命を自分たちで守れるように、災害に備えていきましょう。

平荘小学校は、昨年度から『はるかのひまわり』を育てています。28年前からの『はるかのひまわり』を、なぜ今育てているのでしょうか。それは、『はるかのひまわり』を育てることを通じて、地震のこと、命のこと、身を守ることを、常に意識して生活してほしいからです。地震が発生したら、まずどのような行動をとればよいかを考え、自分の身を守る行動をとってほしいからです。

今日（1月17日）は、みなさんは、教室から運動場に避難をしてきました。地震発生時に、まず、どのような行動をとったらいでしょうか。この度は授業中で近くに先生がいたため、先生が出入口のドアを開けて逃げ道を確認しました。みなさんは、机の下にもぐって頭を守りましたね。室内にいる時に地震が起こったら、ドアを開けて、まず逃げ道を確認することを覚えておいてください。そして、身を守ってください。

4年ほど前に大阪北部地震（2018年6月）が発生しました。登校中に倒れてきた塀の下敷きになって小学生が亡くなりました。地震が起こった時は、建物や塀から離れて身を守ります。

大阪北部地震発生時には、平荘小学校でも閉まることのない防火扉が閉まったそうです。そこで、今回の避難訓練では防火扉を閉めました。地震では何が起るかわかりません。どんな状況であっても、自分の身を守るためにどんな行動をとるとよいかを考えて動きましょう。

児童会や4年生のメッセージを受けて、みなさんはどんなことを思ったでしょうか。

私（校長）は、阪神淡路大震災で被災された人から、**日頃のあいさつが自分を助ける**という話を聞きました。今日の4年生の発表にもありました。あいさつをはじめコミュニケーションをとって人と人がつながりを持つことが大切です。自分という存在をお互いが意識することで、何かあった時には、「〇〇さんは大丈夫だろうか」と気遣うこと（気遣ってもらえること）ができます。お互いに相手を大切にする関係ができます。

災害に備えることは、水や食料等物を備えることはもちろんのこと、人とのつながりを備えることも非常に大事です。

また、地震とセットで津波も頭に置いておきましょう。地震の後すぐに津波が来るわけではありませんが、時間をおいて津波がやってくる場合があります。覚えておきましょう。

今日は、大切な命を守るための訓練を真剣にできました。

## 津波による避難訓練（1.17）

1月17日（火）に、地震・津波による避難訓練を行いました。



津波による避難は、海や川等水辺から離れ、高い所へ避難します。高台や建物の上階（垂直避難）に避難します。

理科室



図工室

